



各 位

2022年5月6日

会社名 株式会社 アルメディオ
代表者 代表取締役社長 高橋 靖
(コード番号 7859 東証スタンダード)
問合せ先 取締役 経理・情報開示・IR担当
関 清 美
電話番号 042-511-0500 (代表)

特別損失の計上および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2022年3月期期末におきまして、下記のとおり特別損失を計上する見込みとなりました。また、特別損失の計上および最近の業績動向を踏まえ、2021年5月14日に公表しました2022年3月期(2021年4月1日～2022年3月31日)の通期連結業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上およびその内容

当社は、2021年5月14日に公表しました「中期経営計画2021」の達成に向けた取り組みを推進し、事業構造改革のスピードを上げ、機能性材料メーカーへの転換を目指しております。2019年4月から新規事業として開始したナノマテリアル事業の成長スピードアップを実施しておりますが、本採用に向けてのサンプル評価が進展していく一方で、顧客への販売が本格化すると見込まれる時期や販売量などが顧客の状況に依存する場合があります。また、中国での新型コロナウイルスの感染拡大やウクライナ情勢など、経営環境の変化による不確実性を伴い、計画に影響を受ける可能性があります。このことから回収時期および回収可能性を厳格に検討した結果、事業用資産および共用含む本社において固定資産の減損処理を実施し、約73百万円を特別損失として計上する見込みとなりました。

ナノマテリアル事業は計画での販売時期や販売量には至っておりませんが、国内外共に幅広い業種へのサンプル出荷件数や、1企業で複数の用途を検討する顧客が増加しております。また、2021年8月に東村山事業所を開設したことにより、設備の統合と営業部門及び生産部門が1拠点に集約され、開発研究等のスピードアップを実現しております。さらに2022年1月に福島双葉工場の建設工事に着工し、本格採用に向けた生産体制の構築を進めております。今後も当社がこれまでに蓄積してきた知見・ノウハウなどの優位性を生かし、更なる拡大・発展に取り組んでまいります。

2. 2022年3月期通期の連結業績予想数値の修正（2021年4月1日～2022年3月31日）

(1) 修正の内容

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	2,521	△28	△36	△64	△4.41
今回修正予想（B）	3,266	74	97	△39	△2.65
増減額（B－A）	745	102	133	25	
増減率（％）	29.5	－	－	－	
（参考）前期実績 （2021年3月期）	2,681	△11	△3	△135	△9.24

(2) 修正の理由

断熱材事業は、連結子会社・阿爾賽（蘇州）無機材料有限公司において、期初業績予想時の想定為替レートに対して円安に進んだこと、また産業炉、異型成形品の販売が増加したことにより、売上高が計画を大きく上回る見込みとなりました。アーカイブ事業は、産業機器用光ドライブの販売において、物流停滞の不安から前倒し受注が続いている米国及び欧州向けが増加したことにより、売上高が計画を上回る見込みとなりました。インダストリアルソリューション事業は、光ディスク以外の媒体への移行が進んでいる影響、その他事業は計画の遅れにより、売上高が計画を下回る見込みとなりました。

以上のことから、セグメント売上については、断熱材事業では517百万円（内、円安の影響347百万円）増加、アーカイブ事業は287百万円増加、インダストリアルソリューション事業は15百万円減少、その他事業は46百万円減少する見込みとなりました。一方、セグメント利益については、売上高が計画値を大きく上回った断熱材事業では96百万円増加、アーカイブ事業は50百万円増加、売上高が計画値を下回ったインダストリアルソリューション事業では10百万円減少、その他事業は43百万円減少する見込みとなりました。

以上の結果、当初予想から売上高745百万円、営業利益102百万円、経常利益133百万円、親会社株主に帰属する当期純利益25百万円が増加する見通しとなりました。

（注）上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後発生する様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上